

中心街の古民家を地域活動拠点へ

誕生 学生と住民との交流の場

みんなで「あつまり」「つながり」「活躍する」ためのホットな情報をお届け！

発行：甲府市協働支援センター

古民家は旧鈴村邸と言います

旧鈴村邸は戦後間もない昭和24年に建築された平屋建てで、甲府市丸の内の中心市街地に残る数少ない邸宅として現存しています。

旧鈴村邸はリニューアル工事を終え『地域のつながり拠点』として、令和6年12月7日にオープンしました。この施設は邸宅のオーナーが所有するアンティークグッズを展示する部屋と交流スペースやカフェが設けられています。多世代交流スペースと名付けられた一室は、山梨県立大学の学生を中心に運営され、地域住民向けのイベントや地域課題発掘の活動拠点として活用されていく予定です。10月20日には、学生も邸宅のリニューアル工事に参加。壁塗りなどの作業を手伝って施設のオープンに備えました。

▶壁塗りの作業を手伝う山梨県立大学の学生たち



考える 古民家再生と地域の将来像

11月30日、山梨県立大学地域研究交流センターが主催する『春日地区の空き家について考える』をテーマに、鈴村邸活用の将来像を考えるワークショップが開催されました。春日地区自治会連合会の加々美会長を始め、地域住民19名と安達ゼミの学生合わせて37名が参加し、5つの班に分かれ理想的な将来像を発表しました。

施設オープン後は、鈴村邸の多世代交流スペースに出来上がった将来像を掲示し、来場者に向けて情報発信をしました。参加した学生たちは『みんなが望むことを実現していく場にしていきたい』との想いを語ってくれました。

学生 × 鈴村邸オーナー

邸宅のオーナーで、ここで育った飯田千春さんは掲示された将来像を前に、学生たちに施設活用の想いを語ってくれました。『展示してある古いと思ったちゃぶ台も、若手の皆さんはかわいいと言ってくれる。若手の感覚にシニアの感覚が響く部分が多いことを感じた』『公民館とは違う畳の温かいイメージの中で、学生の皆さんの力で元気溢れる地域を復活させてもらいたい』とのことでした。

学生と住民の地域活動を育むみんなの交流の場として活躍していただきたいと思います。



▲学生に思いを語る飯田さん本人のイラストとともに



班毎に課題点を整理しました



春日地区加々美会長と学生たち



安達ゼミの学生たち

◀ワークショップ

◀鈴村邸オープン当日

◀発表した資料の掲示